

ネコのように棲まう

睡眠について考えました。

私がかで一番長くしている行動は“睡眠”です。
一日の大半を会社で過ごし、家では風呂や食事を含めても
夜寝る時間が、家で過ごす時間として一番長い行動です。
また昨今のワークライフバランスの多様化により、ある人は家で一番仕事をして、あまり睡眠をとらない人もいます。

しかし私の知る限りでは“寝室”という部屋は、おおよそ8畳程度の、ベッドが置けるだけのスペースであることがほとんどです。
私は“生活”という変わり続ける要望に対して、その時の気分で、
ネコのように居心地の良い場所を見つけて自然と寝てしまうような、寝室のない家を提案します。

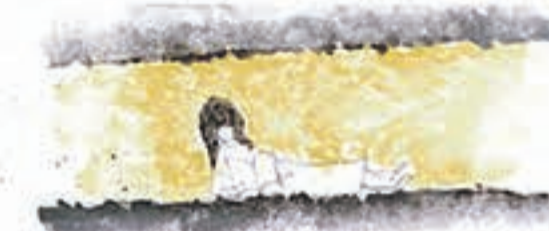
自然の中で気持ちのいい場所や、普段の生活の中で何気なく感じている居心地の良さを
断片的に体験できる家は、私たちにとって新たな選択肢のひとつになるかもしれません。

そういえば西山卯三が衛生面に配慮した食寝分離論を唱えたのは70年以上前になりますが、
その延長で出来上がったnDKという概念は、今も変わらず私たちの生活に必要な単位として存在しています。

私はnDKという単位や食寝分離という、いつまでも変わらない考え方を少しだけ緩めてあげることが、
変化の多い現代に合った、柔軟性のある家になると信じてます。



暗くてせまいアナ



低くて長いアナ



ちょうど良いクボミ



おおきなソファ



丘のようなナナメ



大木の下のようなタマリ



見えないトコロ



ひんやりした床



少し窮屈なスキマ



アノ人の肩



風が抜けるトコロ



一人多役なテーブル



実は見えない場所



広くて明るい場所



静かなヒカリ



非日常の優越感